

# 「洗う」にこだわり、新市場開拓!

## 「葉付大根洗浄機」に熱い視線

株エフ・イー(旭川)

代表取締役社長 佐々木 通彦氏



プロフィール  
農業施設、製缶類、各種環境装置開発・製造業。鉄工二社が合併し一九九一年設立。資本金一、五〇〇万円。社員二十名。年商三億四、〇〇〇万円。

食品スーパーの大根売り場。艶やかで瑞々しい大根が目に入ります。とりわけ葉付き大根は葉の栄養価が見直され比較的高値で取引されています。この新鮮な大根を支えているのが株エフ・イーの「葉付大根洗浄機」。すでに全国で一五〇台が普及しています。

### 三年越しで開発

大根は傷みやすく、表面に傷がつくと変色し、商品価値が落ちてしまいます。農家では、鮮度の高い葉付き大根を少しでも高い価格で販売しようと、一本一本手洗いしていました。大根洗浄機そのものは、すでに二十年以上前から製品化されていますが、どうしても大根の表面に傷がつきやすかったのです。佐々木社長

さんは、前職から野菜洗浄機の開発に携わっていました。そして株エフ・イーの前身となった父親の経営す

る木材加工機械製作会社にて一九八三年に転職。前職での経験を活かし徐々に野菜洗浄機の開発・製作にウエートを移していきま

た。本格的に「葉付大根洗浄機」の開発に取り組んだのは一九九七年頃のこと。試作を重ね、ついに三年越しで開発に成功したので

す。この洗浄機の特徴は①高圧で一直線上に水を吹き付ける②高速回転するブラシに角度をつけ、毛管現象を活かしてブラシ表面に水の膜をつくり、傷をつけずに泥を落として送り出す③その際に葉の部分は、ちょうどタオルを絞ったような形でまとめられ、痛まずに回転してくれる、というものです。洗浄機を出た後の大根の葉は見事にシャキッとして新鮮そのものです。シンブルで故障の少ない構造を目指しました。この構造は特許も取得しました。

### 韓国にも自社ルートで初輸出

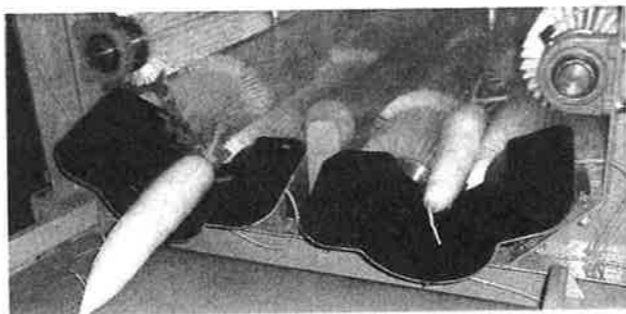
国内はもとより、海外からも熱い視線が注がれるこ

の洗浄機。すでに商社を通して洗浄機を海外に輸出した経験がありました。二〇〇六年には、一日二万本の処理能力を持つ大根洗浄機が韓国に渡りました。今回は旭川市の関係機関やJERTRO(日本貿易振興機構)、それに金融機関のアドバイスを受け、初めて自社ルートで輸出しました。現地では早速話題を呼び、「大根の商品価値が高まり、

消費者から高い人気を集めている」と地元新聞が大きく取り上げ、視察が相次いでいるそうです。これがかきつけで、韓国からさらに処理能力の高いプラントの引き合いも頂いています。

### 環境分野や異業種連携に視野を広げて

この「洗う」技術が、上



水道分野にも使われています。ろ過に使われる砂や砂利は数年で汚れ、入れ替えられ、そのまま産業廃棄物とされています。洗えば再利用できるこの分野に同社の洗浄選別技術が応用され

ました。

また旭川の食品加工業は業種別出荷額では一位を占めています。これまで大半の食品加工機械は道外から購入していました。佐々木社長さんも役員を務める旭川機械金属工業振興会では地域の食品加工業界と協力し、枝豆のさやむき機の開発など共同の取り組みに着手しました。ここでも同社の機械技術を活かして開発が進んでいます。

新年は「社内の誰もが当社の商品力をしっかりアピールできるように、営業力アップをめざし、社内全体で定期的な勉強会を始めたい」と意欲を語る佐々木社長さんでした。

聞き手 事務局 小村昌弘